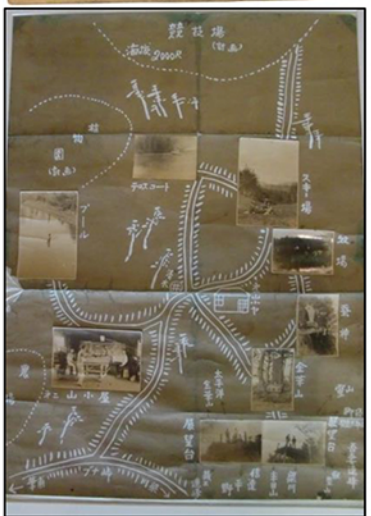


三浦が出場した  
オリンピック

# 五輪とその後



↑オリンピック村開拓の様子(上)と  
地図(下)



←アントワープ大会での  
日本選手団の入場行進

シルクハットの男性(一  
番左側)の右横に三浦も  
写っている

オリンピックで世界の強さを痛  
感した弥平は、アントワープ大会の  
後、帰国せずドイツに留学します。  
ベルリン大学で経済学を学びなが  
ら市内のシャーロットテンブルグ・ス  
ポーツクラブに所属しスポーツ活  
動を続け、その後 1923(大正 12)年  
にはドイツ体育大学に入学(5 年間)  
し、体育学を専攻しました。

パリ大会を経て若者の育成にス  
ポーツの必要性を感じた三浦は、  
1928(昭和 3)年の帰国後には母校で  
ある早稲田大学の講師要請を断り、  
故郷の白根村でスポーツ振興活動  
に熱心に取り組みます。

当時としては先進的な考えを持  
ち、自然プールを建設して水泳学校

や林間託児所などを開設、なかでも  
1932(昭和 7)年に建設したオリンピ  
ック村(宮城県伊具郡筆甫村の山  
林)は三浦の理想が詰め込まれた施  
設でした。オリンピック村には競技  
場やテニスコート、プール、スキー  
場などが設置され、青年団などのキ  
ャンプやスポーツ練習などに活用  
されましたが、太平洋戦争の悪化に  
伴い、わずか 4 年あまりでやむなく  
閉村となりました。

この他、三浦はスポーツ・文化振  
興や若者の体力づくりの推進、地方  
の農村の発展のために様々な活動  
を行いました。詳しくは展覧会でご  
紹介します！

## 東京オリンピック銅メダリスト

つぶらやこうきち

# 円谷幸吉

東京オリンピック(1964 年)で銅メダルを獲  
得した円谷(円谷幸吉メモリアルホール〔須  
賀川市〕の展示パネルより)→

1957(昭和 32)年 10 月、高校 2 年時に代走で  
出場した福島鶴新駅伝が、その後マラソン人  
生をおくるきっかけとなった。



福島県須賀川町(現須賀川市)出身のマラソンラ  
ンナー・円谷幸吉は、1964(昭和 39)年の東京オリ  
ンピック男子マラソンで銅メダルを獲得しました。  
今回の展覧会では円谷の詳しいプロフィールとと  
もに、須賀川市の協力のもと、円谷に関する資料や  
遺品などを展示する予定です。

2020 年東京オリンピックに向け、福島県が生ん  
だ三浦弥平と円谷幸吉の二人のオリンピックの功  
績を紹介します。どうぞお楽しみに！

主催・  
お問合せ



伊達市梁川美術館  
Yanagawa Museum Of Art

〒960-0782 福島県伊達市梁川町字中町 10

TEL/024-527-2656

開館時間…9:30～17:00(最終入館は 16:30 まで)

休館日…毎週月曜日(祝日の場合は開館)、

祝日の翌平日、年末年始(12 月 28 日～1 月 4 日)

常設展入場料金…一般 200 円、高大生 100 円、小中生 50 円

※企画展入場料金は異なります

### 交通のご案内

- 阿武隈急行線「梁川」駅 徒歩 20 分
- 福島交通バス「梁川 中町」バス停 徒歩 2 分
- 東北自動車道国見 IC から車 15 分

※当館南側のお客様専用駐車場をご利用ください。

満車の場合、梁川中央交流館駐車場をご利用ください。

